

## CONTENTS

- |                   |   |                   |   |
|-------------------|---|-------------------|---|
| ■グリーン購入シンポジウムin滋賀 | 1 | ■エコに学べ! 草津市役所     | 7 |
| ■びわ湖環境ビジネスメッセ2007 | 4 | ■リレートーク 瀬田アーバンホテル | 8 |
| ■REPORT           | 6 | ■会員発エコ商品情報        | 8 |
- 環境にやさしい買い物キャンペーン／事業所見学会

### グリーン購入シンポジウムin滋賀

## 「グリーン購入は、地球温暖化防止の特効薬となり得るか?」 ～金融、中小企業、消費者、行政の目から見る、その可能性～

日時：2008年1月17日(木) 会場：びわ湖ホール 小ホール  
主催：滋賀GPN・GPN 協賛：(株)滋賀銀行  
後援：滋賀県、大津市、滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

京都議定書の第一約束期間が今年から始まります。そんな新年にあたり、グリーン購入を切り口として環境と経済を考えるシンポジウムを開催しました。県内外から約250名が参加し、持続可能な社会への思いを共有しました。

### 記念講演

#### 「新しい資本主義経済を考える～グリーン購入の未来と、その可能性～」

武藏工業大学大学院 環境情報学研究科 教授 中原 秀樹氏

### ■地球の環境容量を超えてしまった

1980年代、日本で言えばバブルの時代に、温室効果ガスの排出量は地球の環境容量を超えるました。環境容量とは、これ以上温室効果ガスが増えると環境汚染の借金を背負うという限界点です。私たち日本人の今の暮らし方を、もし世界中の人がやったとすると、なんと地球2.5個分の資源を使うことになる。つまりあと1.5個の地球が必要だということです。それくらい、私達は持続不可能な消費パターンを繰り返しているのです。IPCC第4次評価報告書でも温暖化は「人災」であるとの見方が示されたように、私達のライフスタイルを根本的に見直さない限り、温暖化問題は解決しません。不都合な真実に向き合い、「私達は破壊者なんだ」という自覚を持つべきなのです。



### ■持続可能な生産と消費へのシフト

この自覚のもとに、ほどほどに飲み、ほどほどに食べ、資源をほどほどに使っていくという、持続可能な生産と消費の枠組みを作っていくかもしれません。モノは足りさえすればよく、多すぎるのは悪だという思想がどこを探しても見当たらぬ間は、資源消費の速度は落ちないでしょう。また、テクノロジーは私達の生活を豊かにしてくれる反面、使い方を誤れば、人を殺め自然を壊す道具にいつでも変わります。そんなモノやテクノロジーにトップの地位を与え、いちばん大事な自然是後からいくらでもコントロールできるだろうと高をくくっていては、持続可能な経済は実現しません。



「石油資源の問題から戦争にまで発展することもある。この世から資源を奪奪するためのいさかいを起こしたくないというのが、私が環境問題を研究している理由です。」と語る中原教授

### ■健全な懐疑心を持ちましょう

真実のデータを、全ての消費者に分かる言葉で提示するのが企業の社会的責任であることは言うまでもありません。また、消費者に正しい情報を提供し、選ぶ目安を作ることがグリーン購入ネットワークや様々なNPO、NGOの果たすべき役割であり、それをサポートするのが行政の役割では

ないかと思います。そして消費者は、健全な懷疑心を持ちましょう。何もかも疑っていては世の中うまく行きませんが、ブランドやマークだけに頼りすぎない「確かな目」を持つことが大事ではないでしょうか。

グリーン購入は、私達の「確かな目」と自発的な意思に

よって、市場経済を持続可能なものに移行していく手段です。グリーン購入という行為を通して、健全な懷疑心を持ちつつ真実を理解することができれば、私達の根本的な暮らし方を変えていくことができるでしょう。

## 座談会 「グリーン購入は、地球温暖化防止の特効薬となり得るか？」

中原教授の講演に続き、「第9回グリーン購入大賞」受賞団体((株)滋賀銀行、(株)沢田商店、滋賀県環境生活協同組合)の皆さんに事例報告をしていただきました。その後、滋賀県の嘉田知事にもご出演いただき、座談会を行いました。パネリストのお話の要旨をご紹介します。



「逃げない、ごまかさない、隠さない、そして、あきらめない」が私の仕事の基本哲学です。

滋賀県 嘉田知事

20世紀は生産の時代だったのに対し、21世紀はリスクと対応する時代、リスクをいかに少なくするかが課題です。温暖化の加害者は先進国、被害者は途上国であり、特に立場の弱い子ども達にしわ寄せが行っていると言えるでしょう。

環境と省エネの技術を緻密に積み上げてきた日本には、「もったいない」という思想があります。これを世界に発信できないとしたら、こんなにもったいないことはありません。

私が知事として仕事の根っこに置いている、3つの「ない」があります。厳しい現実から逃げない、行政の都合でごまかさない、不都合な真実も隠さない。最近はそれにプラスして「あきらめない」。行政の基本哲学だと思っています。

環境保全に熱心な滋賀に立地していることは、企業にとって社会的評価にもつながっているはずです。環境配慮は決して経済活動を阻害するものではありません。

滋賀県ではこれから洞爺湖サミットに向けて、持続可能な地域社会ビジョンをまとめあげて具体的に提案していきたいと思っています。

環境問題は前向きなテーマ。  
夢とロマンのある世界です。



滋賀銀行 高田頭取

環境問題というのは決して後ろ向きのテーマではありません。前向きのテーマであり、夢とロマンのある世界だと私は認識しています。個々の企業がサステナブルな存在である

### ●パネリスト

嘉田 由紀子氏 (滋賀県知事)  
高田 純一氏 ((株)滋賀銀行 頭取)  
沢田 昌宏氏 ((株)沢田商店 代表取締役)  
藤井 純子氏 (滋賀県環境生活協同組合 理事長)  
土屋 正春氏 (滋賀県立大学副学長・滋賀GPN代表幹事)

### ●コーディネーター

中原 秀樹氏 (武藏工業大学大学院 環境情報学研究科 教授)

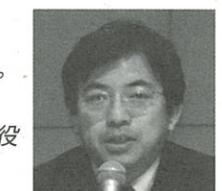
ための前向きな投資として、それぞれのレベルで地球環境問題をビジネスに取り込んでいく、これは実におもしろい、胸がワクワクする世界です。

近江商人の「三方よし」という見事な商人道徳があります。まさにCSRの原点そのものを我々の先祖は作ってくれた。そのDNAを我々は持っているはずです。環境保全と経済発展との両立は、人類の英知と意志を共有すれば必ずできるはず。滋賀経済人の腕の見せ所だと思います。

滋賀エコ・エコノミープロジェクトというのを昨年立ち上げました。産官学に金融も加えた「産官学金」でプロジェクトに関与することにより、正しいエコ・エコノミービジネスを立ち上げ、全国や世界に発信していけば、それが大きなうねりとなって地球環境問題に貢献すると思います。日本が世界をリードする絶好のチャンスが来ている中、滋賀県でも環境税や炭素税を取るという方向からだけでなく、いいところにはご褒美を差し上げるというくらいのメリハリをつけて、滋賀からエコ・エコノミーを育てていくべきです。

小企業だからこそ出来ることがある。  
消費者と共同でものづくりに取り組みたい。

沢田商店 沢田代表取締役



寝具は粗大ゴミになってしまうものが多く、その処理をどうするかというのがグリーン購入に取り組むきっかけでした。GPNでも寝具のグリーン購入基準は設定されていなかったので、じゃあ独自にやってみよう、寝具のグリーン購入ガイドラインを設定しました。

太陽の恵みを詰め込んだ健康的な自然素材というのは、環境負荷が少ないだけでなく、よく眠れて身体にいいんです。そういうことを突き詰めていけば、小企業なりの差別化になるし、お客様にも長く使ってもらえる。素材の仕入れも、自

分の目で見て本当にいいもの、いちばん信頼できる人を選んで仕入れるようにしています。大量に安く売るのでなく、いいものをじっくり売る。小企業のほうが、ポイントを絞って自分のところの強みというものを作り上げられると感じています。今後は睡眠文化というのをもっと掘り下げ、質の高い眠りを提供していきたいです。

20年前、これから寝具も環境を考えるべきだと言った時、従業員に「環境で、社長は一体何を考えてるんや」と言われました。今回グリーン購入大賞を受賞させていただき、よそから認められたことで、「あ、結構すごいことじゃないか」と従業員も思い始めているようです。



素敵な若い人達に会うと、  
これからいい時代になると  
樂観できるんです。

滋賀県環境生活協同組合 藤井理事長

1977年の赤潮を受けてのムーブメントの中で、合成洗剤の棚をせっけんの棚に変えたという、消費者が企業を変えることができるという経験をしました。最近は若いお母さんたちが、決して安くはないお米や生活用品を「子どもたちのために安心なものを」と選んでいます。「琵琶湖のために」と気負うのではなく、ダイレクトに赤ちゃんに向かうおやかな意識にハッとさせられます。そういう若い人達がいれば、これから絶対素敵な時代になると樂観しています。意識は高いけれども行動が伴わないというものがこの国の特徴ですが、何かワクワクする活動があれば人は入って来てくれて、気がついたらグリーン購入者になっているということも随分あるんです。

滋賀にも日本にも、持続可能な社会を作るために必要なものづくりをしている企業がまだまだ足りないと感じます。消費者が使いたいものを作ってくれて暮らしを支えてくれる企業がもっと増えれば、本当に

## ★参加者からのメッセージ



(株)パルス  
西村 功さん

滋賀GPNに入会したのは昨年ですが、入会前から、ハイブリッド車の導入や、事務所経費の無駄をなくす工夫を続けてきました。嘉田知事はじめ各氏の話から、多くを学ぶことができました。国を挙げて具体的に、早急に取り組まなければならない大問題がたくさんあります。きれいな言葉だけではなく、行動することが大事だと思います。



AINZUS (株)  
大津営業所  
菊田 譲さん

持続可能な社会になると思います。そんなグリーンマーケットが滋賀ならできる。ただ、滋賀には素地はあるけれども、つなぎが悪い。そこが問題ですね。

仕組みやシステムは無形の共有財産。  
21世紀は仕組みづくりの競争になるでしょう。



滋賀GPN 土屋代表幹事

環境配慮型の行動を経営規模の小さいところにまで先に広げた地域・国が、環境戦争では勝つことになります。「GPプラン」は、どうやって経営規模の小さい企業にまでそれを広げができるかという、一大チャレンジでした。GPプランの企画・運営には、滋賀GPN会員の協力を得ています。彼らは自分の仕事を離れて、戦略会議を開き、登録事業者の方々と面談して実践のお手伝いをしています。自分たちでできることをやろうという、時代に沿った意識の共有ができるからだと思います。このあたりが滋賀県と他の都道府県の違うところですね。こういう地域で働いている経営者、事業者であればこそ、よそとは違うことにプライドを持つべきだと思います。行政と、私達のような団体、そして事業者と、三者が非常にうまくいき始めているところです。

20世紀がモノで成り立った社会だとすれば、21世紀は仕組みづくりの競争だと思います。無形の共有財産だと言える仕組みを、環境についてどうつくるかです。滋賀にはこれだけのものがあるんだと言えるものを早く備えるために、力を合わせたい。だったら滋賀GPNに入ろうと、そういう風になれば良いなあというのが、私の願望です。



■コーディネーター・中原教授  
「グリーン購入は地球温暖化防止の特効薬になり得るか?」というテーマに対し、行政、企業、消費者、市民の立場から大変素晴らしい処方箋をいただきました。

これらの処方箋を得意な分野で取り入れたり、合わせ技を使ったり、今日の話を聞きになった皆さんがそれぞれの立場で役立てていただければ、必ず特効薬になり得ると思います。

# びわ湖環境ビジネスメッセ2007「グリーン購入ひろば」に会員10団体が協働出展

恒例となったメッセ出展。今年は会員10団体が工夫を凝らして協働出展してくださり、にぎやかなブースとなりました。皆さんからのメッセージを紹介します。

## ■(株)アイゼット関西出張所 八木賀子さん

弊社は、約50%の省エネを実現できる蛍光灯タイプの「省エネ照明器具」をご案内させて頂きました。ブースお立寄りの多くの方々にご好評を頂き、3日間の名刺交換枚数は前年比約3倍（約500名）となりました。

## ■近江鉄道(株) 梅原 猛さん

当社の環境への取り組みをパネルで紹介するとともに、当社バスで利用しているバイオディーゼル燃料（廃食油を精製した燃料）の実物展示も行い、来場者に興味深く見ていただきました。

環境活動・グリーン購入を広くアピールしながら、これからも環境にやさしい企業として積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## ■(株)沢田商店 沢田昌宏さん

グリーン購入大賞受賞がきっかけで、自社のPRとして初出展となりました。環境に関するさまざまな情報や多くの人々との新たな出会いが生まれたことが最大の収穫でした。

## ■滋賀県環境生活協同組合 藤井絢子さん

メッセは会員同士がお互いの具体的な活動を見たり、交流したり出来る貴重な機会です。「ビジネスメッセ」なので難しいですが、欲を言えば、もっと「くらし」「地域」を目にするカタチで展示してみたいです。

様々な分野の企業、生活者等のネットワークの力を生かして。

## 滋賀GPNスタンプ&クイズラリー



メッセ出展の会員ブースをつなぐ「滋賀GPNスタンプ&クイズラリー」、今回は20もの会員団体にご参加いただきました。ゴールの「グリーン購入ひろば」には、20ポイントを制覇したラリーカードを手に訪れる来場者も多く、ご参加いただいた会員団体からは「ラリーをきっかけにブースへの来場者が増えたよ!」と嬉しいメッセージをいただきました。

## ■滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 向山千晶さん

企業と共に開発した新型ファイルの宣伝をさせていただきました。ファイル自体の販促を行なえたほか、多くの方に実際に使ってもらって感想やアドバイスを直接聞けたので、今後の活動の参考になりました。

他の企業の方と触れ合う機会が多く、とても実り多い出展になったと思います。

## ■(株)日本エナジー研究所 西川實さん

いよいよ環境問題も計画段階から実行する年となりました。2008年の協働出展は、テーマを絞り、そのテーマに合った商品及びノウハウを会員団体に出展して頂き、集合の良さと強さを強調できるようなゾーンにしてはと思います。



## スタンプ&クイズラリー 参加団体

AINZ(株)、アケボノ特機(株)、大阪ガス(株)、川重冷熱工業(株)、関西電力(株)滋賀支店、木村電工(株)、(株)國陽、(株)コクヨ工業滋賀、コクヨマーケティング(株)、(株)滋賀銀行、滋賀県商工会連合会、滋賀県地球温暖化防止活動推進センター、滋賀リコー(株)、TMエルデ(株)、日本ソフト開発(株)、日本まんなか共和国、富士ゼロックス京都(株)、(株)平和堂、(株)山久、(株)ラーゴ（50音順）

メッセ公式ガイドブックの最終ページにラリーカードを印刷し、参加ブースの紹介を兼ねました。



▲フォーラム講師の安井先生もご来場

## ■ミドリ安全滋賀(株) 横山浩一さん

今回協働出展してみて、他府県や外国からの出展者もあり、環境関連の展示会では国内2番目の規模ということに納得しました。私どもは企業に安心と安全を提供する会社ですが、今後、環境面にも配慮した商品が必要を感じました。来年は是非とも単独で出展したく、今から準備を始めようと思っています。

## ■(株)山久 平山正樹さん

弊社は、機械要素部品の専門商社として、環境コンサルタント関連会社(株)エコヒルズのe-ラーニング教材「これだけISO管理ソフト」をご案内しました。これからも「人と地域に、安心という名の信頼。」を理念に地域に貢献します。

## ■(株)ヨシダヤ 吉田近博さん

今まで外部からしか見られなかったメッセの重要なエッセンスを、今回自ら参加することにより知り得ることができました。環境に関する出展企業それぞれの技術、情熱が早く世界に地球に届くことを真摯に願っています。

## ■立命館大学 Rec o. Lab 和泉憲明さん

今回出展した内容は、文具を通じ環境問題を啓発するグリーンコンシューマーPJと、大学の食堂から出た廃油を利用してバスを走らせる菜の花PJでした。また、出展を通じて企業の方々と話せたのは貴重な経験でした。

2008年度のメッセでも協働出展コーナーを設け、スタンプ&クイズラリーを実施予定です。

会員の皆様  
ぜひご参加  
くださいね。

## びわ湖環境ビジネスメッセ10周年記念セミナー

### グリーン購入フォーラム2007

## ストップ地球温暖化!

～琵琶湖と、すべての生き物たちと共に～

- 日 時 2007年10月26日(金)
- 会 場 長浜バイオ大学 大講義室2
- 主 催 滋賀GPN、GPN、滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会

### 基調講演 「気候変動+2℃を超えないために」

国際連合大学副学長 安井至氏

#### 『講演要旨』

「2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出を半減させる」、現状からするとこれを実現するのは大変なことです。経済を縮小させることでそれを実現するというのは非現実的であり、当面はゆるやかな経済成長を前提としてCO<sub>2</sub>の排出を下げるということを考えいかざるを得ません。



期待された燃料電池は、水素を取り出すために多くの化石燃料が必要となり、最近注目されているバイオ燃料も、食料と競合する形での使用は好ましくありません。今後予想される中国などの高い経済成長の結果もたらされる環境負荷は、地球規模での脅威となるでしょう。それを避けるためには、2020年ごろまでに高度な省エネ技術を日本が早急に開発して、中国をはじめ世界中に提供できるようにすることだと考えます。

私たちがこれから自らの暮らしの中で目指すべきことは、省エネ省資源を徹底させることであり、ゴミになるようなものは最初から買わないようにすることに尽きるでしょう。

20世紀は大量消費による大量利益を求める時代でした。21世紀は、使用する資源を少なく、生み出す価値を大きくする時代にしていかなければなりません。

我々の暮らしの中で、1人1日1kgのCO<sub>2</sub>を削減しようという政府の方針が出ています。燃費のいいプリウスでも1台作るのに5500kgのCO<sub>2</sub>が出るそうで、CO<sub>2</sub>1kgというのは新幹線の場合で50km移動するのに相当しますが1800cc級のマイカーだと5kmしか走れません。クルマをやめているというのは相当大きな貢献になるのが分かります。

結局は、考え方や暮らし方を変えることが(人間性の復活にもつながるという意味からも)最も大事なことではないかと思われます。コンビニの深夜営業や異常に多い自販機が本当にどこまで必要なのか?冷暖房の効いた個室で家族がバラバラにテレビやパソコンに夢中になっている今の生活が、コタツに入って家族団らんを楽しめる暮らしに比べて本当に豊かなのか?ということをもう一度自らに問いかけるべきですね。

基調講演の後、基調報告「琵琶湖は、今」と題し、滋賀県琵琶湖環境部上田一好理事より、貴重な水資源であり数多くの固有種が生息する琵琶湖が、今どのような事態を迎えているのかについてお話をいただきました。さらに、近江鉄道(株)梅原猛氏、(社)滋賀県建設業協会 山田浩之氏、(株)マルト 澤田順子氏、高島市長 海東英和氏より、「今、私たちがすべきことは?」と題して、それぞれの環境に関する取組みについて発表をしていただきました。

(編集委員:東近江市役所 川村)

## Report 1 環境にやさしい買い物キャンペーン

10月の3R推進月間に合わせて「環境にやさしい買い物キャンペーン」を展開しました。今年のテーマは、「マイバッグ・マイバスケットを持っていこう!」「つめかえ品を選ぼう!」「省エネタイプを選ぼう!」の3つ。

啓発イベントでは「クイズラリー」や「お買い物ゲーム」などを実施し、容器や包装の少ないものを選ぶことでゴミの減量につながることや、手回し発電機を使って電球型蛍光灯の効率の良さを紹介しました。

### 2007年 啓発イベント実施店舗

10月 6日(土) サティ近江八幡店  
10月 8日(月・祝) アルプラザ水口  
10月13日(土) ピバシティ彦根  
10月14日(日) ジャスコ西大津店  
※その他22店舗にて店頭啓発を実施



会場は多くの人で賑わい、地球温暖化の現状やグリーン購入について知っていたくよりの機会となりました。

### ■スタッフ参加者からのメッセージ

啓発イベントにスタッフとして参加後、私自身も早速家の電球を取り替え、翌月の電気料金の明細が届くを楽しみに待ったり、お買い物袋を忘れないように、かばんに折りたたんで小袋を持つようになりました。身近な買い物からライフスタイルを変えることは、販売する企業や社会を変えることにもつながると思います。無理せずエコな暮らしを、より多くの方に実践していただきたいですね。

(甲賀市役所 生活環境課 井口英明さん)



8時30分に集合した。まだ開店していない店内は、どこか新鮮でうれしい。いよいよ開店、私は自転車発電機のコーナーを担当。子どもたちが一生懸命漕ぎ、電気が点灯する。なかなか扇風機は回らない。電気を作ることって大変だよね。大切に使ってね。「見てないテレビは消すよ」と子供たち、今日は何か地球にお手伝いできたような気持ちで解散した。

(関西電力(株)滋賀支店 小幡宗宏さん)



## Report 2 評価手法研究会主催 事業所見学会



グリーン購入評価手法研究会では、昨年11月16日に(株)たねや愛知川本社工場さんと(株)水口テクノスさんとの協力により、会員34名による事業所見学会を実施しました。

たねやさんでは、バームクーヘン端材の養豚用飼料へのリサイクルや、CSR活動の一環として取り組まれている企業内保育園『おにぎり保育園』の見学を、また水口テクノスさんでは、甲賀市との協同事業で種堆肥(たねた

手法研究会では、旭化成住工(株)本社滋賀工場 松宮秀典さん

いひ)を用いたユニークな『生ゴミ循環エコロジーシステム』の取り組みについて伺いました。

愛荘町から甲賀市までの長い道程でしたが、バスでの移動は会員の交流を深める有意義な時間となりました。途中たねやさんが経営されるお店「分福茶屋」さんで自然の食材を用いた昼食をご用意いただき、お店の方の丁寧な説明の後、参加者全員でおいしくいただきました。



### 参加者アンケートより

#### <(株)たねやさんを見学して>

- 本業と環境を含めた社会貢献の理念が、急成長につながっているのだと思った。
- 「会社として、お金と理念があればできることは当然のこととしてやっているが、社員個人の生活の中はどうやって環境意識を取り込ませるかが課題」との言葉が印象的だった。
- おにぎり保育園は従業員満足につながる大変よいCSR事例で、海外の教育思想を日本風にアレンジした教育方針がしっかり浸透していて素晴らしい。

#### <(株)水口テクノスさんを見学して>

- 多岐にわたって素晴らしい取り組みをされており、そのシステムと共に関わっている人々のマンパワーの重要性を改めて感じた。
- 廃棄物処理の現場はなかなか見る機会がないので勉強になった。非常に地道な作業で行われていることに驚いた。
- 説明の中で「県内にあと3、4箇所同じようなセンターがあれば」との話があったが、リサイクル腐葉土が県民に行き渡るようになれば素晴らしいと思った。

## エコに学べ!

### 環境にやさしい事業所活動を市役所から ～低公害車導入の取り組み～

草津市役所 環境課エコライフグループ 岡本寿幸さん

#### ■環境への負荷が小さくなる

事業所活動を市役所から実践 環境負荷の少ない事業所活動は市役所自らがまず実践している。様々な事業所活動の中でも、毎日使用している公用自動車の燃料を消費することによって発生する排気ガスを、少しでも環境負荷の少ないものにできないか。その結果が、燃料そのものを少なくするための軽自動車化、CO<sub>2</sub>・NO<sub>x</sub>・SO<sub>x</sub>の排出量を少なくするための天然ガス化、燃料を効率よく使用するためのハイブリッド化でした。



▲市内を走る天然ガス自動車

速充填設備を有したガソリンスタンドが開業したため、現在ではほとんどの場合、そちらを利用しています。

#### ■環境にやさしい自動車をアピール

天然ガス自動車のリアウインドとボディ側面には「環境にやさしい天然ガス自動車」のステッカーをつけています。天然ガス自動車が草津の街を走るたびに市民や草津市を訪れる人々の目に映り、環境負荷の少ない事業所活動を市役所自ら率先して実行していることをアピールするとともに、一人でも多くの人たちが環境に配慮した行動をすることに繋がっていくことを期待しています。

今日も草津市の公用車は、「琵琶湖に開かれた環境文化都市くさつ」を快走しています。

〈お問合せ〉草津市役所 環境課  
TEL:077-561-2341 FAX:077-561-2479

★「エコに学べ!」  
会員団体からの投稿募集!  
あなたの事業所・団体でのエコな取り組みを、ぜひニュースレターで紹介して下さい! 詳しくは事務局まで。

### 編集後記

年始のテレビで地球温暖化をテーマにした番組が目白押し。マスクを通じて一人ひとりの環境に対する意識が高まることを期待しながら、一方で便利さと快適さを享受している自分自身として何ができるか考えてしまった。企業・団体の活動にとどまらず、地球市民として身近なことから実践しなければ手遅れになってしまう。グリーン購入ネットワークの活動が行動を起こすためのきっかけづくりになればと思います。

(編集委員:ダイキン工業(株)浅井)

### 新規入会会員

(2007年8月11日～2008年1月31日)

高千穂創建(株) 滋賀営業所、アリサラ倉、フジック(株)、滋賀地方自治研究センター、(株)ヒキタ事務機、フジ産業(株)関西営業所

現会員数: 419  
(2008年1月31日現在)

(企業357、行政29、非営利団体33)

# リレートーク Relay Talk

## グリーン購入の未来予想図とは? ～利用者・消費者が求めるグリーン購入を!～

琵琶湖、瀬田川の恩恵を受ける事業者として2000年に業界に先駆けて「ISO14001」の認証を取得し、環境保全活動を開始して今年で9年目となります。「我々にできること」をテーマとし、地道な活動を行なっています。昨年（2007年）には思いもよらず「関西エコオフィス大賞」を受賞させていただきました。

まだ「サービス」と「ぜいたく」が近い意味を持つ社会ではありますが、その中でもお客様にストレスを与えない範囲で、あの手この手で工夫することにより環境保全活動に取組んでいます。電気、ガス、水の節約やゴミの削減は一巡し、大きな成果を上げました。更には県外などからのお客様に各種の環境情報や、当ホテルでの取組み内



容、啓発活動などを掲示物や冊子、ホームページ等で広くお知らせし、環境保全活動をアピールすることは、環境こだわり県のホテルにできる有益な活動と考えています。

ここ数年でお客様の環境意識は劇的に変化したとも感じます。それを追い風として、お客様に客室内でのゴミの1次分別にご協力頂くことや、連泊の際のシーツ交換なしへのご協力依頼、更にはクールビズ・エコサマースタイルとして夏場にはフロントマンが半そでシャツにノーネクタイでの応対などをしていますが、これらは以前にはとても考えられないことでした。

また、昨年より滋賀GPNの幹事企業を担当させていただいている。「購入が地球を救う」とまでは考えるに至りませんが、一人ひとりの草の根運動がやがては習慣となり、定着していくことが当面のGPNの進めるテーマではないかと思っています。ただし、自主選択、自主規制

株式会社 瀬田アーバンホテル

専務取締役・環境マネジメント責任者

片岡尉光さん

※2000年ISO14001認証取得、  
2007年関西エコオフィス大賞受賞



片左より山崎社長、嘉田知事、片岡さん

では限界があり、その後はある程度の強制力をもたらす動きも必要になるかとも考えます。今後はより利用者・消費者からの視点を重視し、人々から、また社会から求められるグリーン購入を考えていきたいと思っています。

次回は、ロマン楽器さんにお願いします。

(株)瀬田アーバンホテル  
大津市大萱1-16-1  
TEL:077-543-6111  
URL:www.seta-urban.co.jp

### 会員発工コ商品情報

#### カーボンニュートラルローン 未来よし～ニゴロブナ3万匹放流～（株）滋賀銀行



「カーボンニュートラルローン 未来よし」は、お客さまが当行の環境関連融資商品を活用して「太陽光発電システム」等を導入、削減されたCO<sub>2</sub>の量に応じて当行が資金を拠出し、琵琶湖の固有種「ニゴロブナ」を放流するものです。通常の優遇金利に加えて、さらに年0.1%を優遇し、自然エネルギーの導入を金融面からサポート、地球環境と琵琶湖の生態系の保全を追求しています。

平成18年度のご利用件数は104件、CO<sub>2</sub>削減量は327トンで、平成20年1月26日には、120万円の拠出金による3万匹のニゴロブナのうち一部を、役職員の手により草津市「からすま半島」で放流しました。

<お問合せ>（株）滋賀銀行 大津市浜町1-38 TEL:077-521-2207

#### 古紙パルプ配合率の偽装問題について

製紙メーカ各社による古紙パルプ配合率偽装の問題が、大きな社会的混乱を招いています。滋賀GPNとして、一連の偽装行為はグリーン購入の根幹をゆるがす背信行為であると考えており、誠に遺憾であります。これに関連して、「エコラボはーとしがーかよい箱プロジェクト～」事業にて供給しているコピー用紙においても公称と実際の古紙パルプ配合率に乖離があることが判明し、同事業を普及啓発してきた滋賀GPNとして非常に残念に思うと同時に、誤った情報に基づいた商品を提供しておりましたことを深くお詫び申し上げます。

しかしながら、本事業につきましては環境と福祉の両面におけるCSR

活動として利用者が広がりつつあることから、今後も継続していきたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願ひいたします。

また、紙製品に統いてインキ、再生プラスチックといった分野でも偽装が判明し、情報のあり方が問われている今こそ、私たちが購入者として「グリーン購入の取り組みを継続していくこと」が、「正しい情報の提供を求める」にも繋がります。グリーン購入においては、「今より少しでも環境にやさしい商品を選ぶ」といった姿勢で、引き続き皆様自身が現時点において入手可能な「環境配慮商品」の購入選択を心がけていただきますようお願いいたします。滋賀GPNとしても正しい情報の収集に努め、随时ホームページ等で発信していきたいと考えています。

滋賀グリーン購入ネットワーク幹事会

### 編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。

